

書籍「武満徹の電子音楽」刊行記念

武満徹二〇一八

書籍「武満徹の電子音楽」の刊行を記念して、
この秋、京都で武満徹にまつわる3つのイベントを開催します。

「武満徹の電子音楽」コンサート

2018年10月9日(火) 18:30開場/19:00開演

同志社大学寒梅館クローバーホール

「武満徹の電子音楽」のデジタル修復

2018年10月14日(日) 18:00開場/18:30開演

外

映画のサウンドトラックにおける「武満徹の電子音楽」

2018年10月20日(土) 18:30開場/19:00開演

MEDIA SHOP

日本を代表する現代音楽の作曲家・武満徹はミュージック・コンクレートと呼ばれる電子音楽だけでなく、ラジオドラマ/演劇/長編劇映画/ドキュメンタリー映画/テレビドラマなどあらゆる大衆に向けてのメディアを舞台として、晩年に至るまで電子テクノロジーを援用した音楽を積極的に手がけていました。そして、武満徹は万国博覧会や音楽祭などの大規模なメディア・イベントの企画なども担当し、そこには電子テクノロジーの存在が強い影響を与えています。本イベントでは、まず「武満徹の電子音楽コンサート」によって、武満徹の主要な電子音楽をコンサート形式で鑑賞し、レクチャーとリスニング「武満徹の電子音楽のデジタル修復」によってその創作の秘密に迫ります。そして、シンポジウム「映画のサウンドトラックにおける武満徹の電子音楽」ではマスメディアと電子テクノロジーの関係を取り上げます。このイベントを通じて、武満徹という作曲家が辿った創作の軌跡から、戦後日本におけるメディア・パフォーマンスの歴史が体験的に概観できるものと考えています。

川崎弘二、榎垣智也

2018年
10月9日(火)

「武満徹の電子音楽」 コンサート

榎垣智也、川崎弘二

同志社大学

寒梅館クローバーホール

京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103

時間：18:30開場/19:00開演

料金：当日1,500円均一

* 同志社大学学生・教職員(同志社内諸学校含む)無料

* 駐車場・駐輪場はございません。

公共交通機関をご利用ください。



主催・問合せ：同志社大学今出川校地学生支援課

tel 075-251-3270

予約：kobjks0317@gmail.com(川崎)

作曲家・武満徹は、ミュージック・コンクレートと呼ばれる電子音楽の、日本におけるパイオニアの一人でした。このコンサートでは、武満徹が1955年に発表した「ルリエフ・スタティク」から1960年の「水の曲」に至る主要なミュージック・コンクレートを、コンサート形式で鑑賞します。各作品の上演は、アコースモニウムというスピーカー・オーケストラの生演奏により、作曲家/演奏家である榎垣智也が行います。戦後、電子テクノロジーによる新しい音楽の地平を切り拓こうとした武満徹の目指したものは何だったのか？川崎弘二と榎垣智也によるアフタートークも含め、その成果を俯瞰的に体験できるコンサートにぜひご参加ください。

上演曲目

- ・武満徹「ルリエフ・スタティク」(1955)※
- ・武満徹、谷川俊太郎「ヴォーカリズムA・I」(1956)※※
- ・武満徹、谷川俊太郎「木・空・鳥」(1956)
- ・武満徹、谷川俊太郎「クラブ・ヴォーカリズム」(1956)
- ・武満徹「ユリディスの死」(1956)※
- ・武満徹「空、馬そして死」(1957)
- ・武満徹「静かなデザイン」(1960)※※※
- ・武満徹「水の曲」(1960)
- ・榎垣智也「沈黙の木 武満徹に捧げる」(2003)

※ 宇都宮泰によるデジタル修復版

※※ クリウウジ(久里洋二)のアニメーション「LOVE」により上演

※※※ デザイナー・佐々木暁の製作による

ブルーノ・ムナリ「ダイレクト・プロジェクション」を伴う

2018年
10月14日(日)

「武満徹の電子音楽」 のデジタル修復

宇都宮泰、川崎弘二

外

京都市左京区鹿ヶ谷法然院西町18

時間：18:00開場/18:30開演

料金：予約2,000円/当日2,500円

* 学生証提示で予約・当日ともに1,500円

予約：http://soto-kyoto.jp/

tel 090-7875-0018

武満徹が初めてミュージック・コンクレートを作曲したのは、いまだから63年前の1955年のことです。これまでCDによって公開されていた武満徹の初期の電子音楽は、ノイズも多く、ダイナミックレンジも狭いものでした。それは当時の機材の未熟さによるものと考えられていましたが、このたび、最新のデジタル技術を用い、1957年に発売されたモノラルのアナログレコードをもとにして、音楽家・宇都宮泰が武満徹のミュージック・コンクレートのデジタル修復に挑戦しました。その結果、武満徹の初期ミュージック・コンクレートは、60年前の作品とは思えないほどの鮮烈さを持ち、いまだ確認することが困難であった音の成分も多数含まれていることも明らかとなりました。本イベントでは宇都宮泰によるデジタル修復の実演と、修復された作品のリスニングを行います。

イベント概要

- ・武満徹のミュージック・コンクレートについて(川崎弘二)
- ・デジタル修復作業の実演と解説(宇都宮泰)
- ・リスニング
 - 武満徹「ルリエフ・スタティク」(1955)
 - 武満徹、谷川俊太郎「ヴォーカリズムA・I」(1956)
 - 武満徹「ユリディスの死」(1956)
 - 諸井誠・黛敏郎「七のヴァリエーション」(1956)

関連企画

2018年10月22日(月)

environment 0g(大阪)

大阪市西区南堀江3-6-1 西大阪ビルB1F

ランガム・リサーチ・センター(イギリス)

武満徹「水の曲」(1960)

宇都宮泰による3チャンネル・デジタル復元版上演予定

× 宇都宮泰

2018年
10月20日(土)

映画の サウンドトラックにおける 「武満徹の電子音楽」

長門洋平、川崎弘二、榎垣智也

MEDIA SHOP

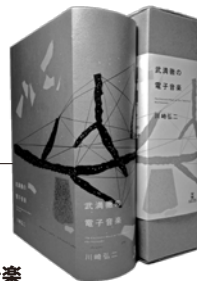
京都市中京区河原町通三条下条の大黒町44 VOXビル1F

時間：18:30開場/19:00開演

料金：1,500円

予約：kobjks0317@gmail.com(川崎)

武満徹は生涯に120本ほどの映画のための音楽を手がけており、晩年に至るまで電子テクノロジーを援用した作曲を多くの作品を通じて試み続けていました。書籍「武満徹の電子音楽」(アルテスパブリッシング)においても、急速に発展する電子テクノロジーを援用して、武満徹が「狂った果実」(1956)、「砂の女」(1964)、「怪談」(1965)、「心中天網島」(1969)、「愛の亡霊」(1978)、「乱」(1985)などの映画のための音楽を、どのようにして作曲していたのかを明らかにしました。本イベントでは、サントリー学芸賞を受賞した「映画音響論 溝口健二映画を聴く」(みすず書房)などの著作で知られる長門洋平、近年、七里圭監督による実験的な映画のためのコラボレーションに取り組んでいる作曲家/演奏家の榎垣智也、そして、書籍「武満徹の電子音楽」の著者・川崎弘二を迎え、映像メディアを舞台とした武満徹の音楽についてのディスカッションを行います。



書籍

武満徹の電子音楽
川崎弘二 著

アルテスパブリッシング 税込12,960円